



茅野市中央公民館 ☎72-3266
茅野市宮川 4 5 5 2-2

Chino Cultural Community 茅野市公民館報

No.688 発行:長野県茅野市中央公民館 編集:広報専門委員会 印刷:株中央企画 発行日:2024年(令和6年)12月1日

ゆきどけ.....	1
芸能祭・音楽祭報告.....	2
公民館講座受講生募集.....	3
体レク専門委員会特集・ロビー展.....	4~5
高齢者大学報告.....	6~7
分館あらかると・ふるさと発見.....	8



芸能祭初出場の東海大学付属諏訪高等学校チアリーディング部（詳細は2ページ）



半自然草原という言葉をご存じでしょうか。自然の状態のみで成立している自然草原に対し、人間による継続的な保全活動等により、植生遷移が進まなくなることによって保たれている草原環境を表す言葉です。

身近なところでは、霧ヶ峰や車山高原が、この半自然草原に該当します。

今年の初夏、霧ヶ峰や車山高原では例年にも増してニッコウキスゲが咲き誇り、訪れた人の目にも、高原の爽やかな光景が映っていたのではと思います。

ニッコウキスゲ自体は、元々自生している品種であるものの、保全活動が行われていなければ、植生は外来種に遷移し、目にする花は違っていたのかもしれない。ひとえに、ボランティア・地権者及び行政の協力・連携が長年あつての結果といっても過言ではないでしょう。

その反面、過去の光景を知っていたり、本来の環境を残したいという考えや植物の知見がなかったりしなければ、そう捉えられない恐れもあります。たまたま訪れた観光客にとつては、別の花で満開となつていても、それはそれで同じ「高原の爽やかな光景」に映つてしまうわけです。外来種は、生存戦略に勝ち根付いたわけであり、本当に悪者なのかと問われると、これもまた考えさせられます。

このように、立場や知識が変われば、認識が変わつてしまうものです。

さて、私たちの住む地区においては、日頃から様々な課題が出てきます。特に、運営する側の後継不足や加入者減少という課題に対して、従来どおりの取組を維持するべきなのか、何か変えていくべきなのかなど検討が必要となる場合もあります。このような時も、多面的な考え方がこれからの地区運営には必要になるよなあ...と、外来種の駆除作業をしながら、考えにふけるのです。（北岡 朋也）

第37回 市民芸能祭

10月6日、茅野市民館マルチホールにて、21団体延べ326名が舞台に立ち、日ごろの成果を発表しました。初出場となる東海大学付属諏訪高等学校チアリーディング部がスタートを華々しく飾り、同じく初出場の山浦民謡踊り保存会の皆さんは、茅野市無形文化財の『天屋節』を披露されました。その他、ダンス、和太鼓、木遣り、朗読、舞踊、居合などが披露されました。



第37回 市民音楽祭

10月13日、茅野市民館マルチホールにて、25団体延べ367名が舞台に立ちました。豊平小学校金管バンド、永明中学校吹奏楽部など、今年は小中学校からの参加も増え、その他、合唱、民謡、カラオケ、ギターや琴の演奏など多彩な演目を楽しみました。



両祭とも、各ジャンルで若い力が大いに盛り上げてくださいました。茅野市の次世代を担う、彼らの今後の活躍を期待します。
茅野市芸術祭（作品展示）は次号でご報告します。

公民館講座受講生募集

(キャンセルする場合はできるだけ早めに茅野市中央公民館担当までお申し出ください)

※ 講座を受講するにあたり、手話通訳などを希望される方は申込時にお知らせください。

縄文文化講座

～「縄文」から「弥生」への転換点、
時代や文化の移り変わりを巡って～

受付開始

12月9日(月) 午前10時～
(電話または
インターネットで先着順)

永明小学校・中学校の新校舎を建設した旧校庭約5,000m²を対象に令和3年に発掘調査が実施されました。続いて、令和5年3月から6月にかけて、社会体育館建設場所(旧鍊成館跡地)の約1,500m²を対象に発掘調査が実施されました。この調査では弥生時代の住居址(あと)や墓地に加え、数多くの遺物が出土しました。

今年度の縄文文化講座では、「**祭祀具から見る縄文時代から弥生時代の移行期**」、「**信州の弥生時代**」などについて、実際に発掘調査を行った茅野市文化財課の調査担当者から学びます。



日 時 令和7年1月15日、22日(水曜日 全2回) 午後6時30分～8時

会 場 茅野市中央公民館2階 学習室

内 容 第1回：祭祀具から見る縄文時代から弥生時代の移行期
第2回：信州の弥生時代

定 員 25名 **費 用** 無料

受講資格 縄文文化に興味のある方(市内・市外問いません)

受付開始 12月9日(月) 午前10時～(電話またはインターネット先着順)



▲ 申込フォーム

お問い合わせ・申込先 茅野市中央公民館 ☎ 72-3266 (窓口受付は行いません)

館内清掃の案内と年末年始休館のお知らせ

館内清掃のため、茅野市中央公民館は、令和6年12月26・27日(木・金)の午前9時から午後5時まで使用ができません。

また、令和6年12月29日(日)～令和7年1月3日(金)の期間は、年末年始の休館となります。令和7年1月4日(土)からは通常通り開館します。

体レク専門委員会特集

スポーツって

素晴らしい!!

中央公民館及び地区公民館では、公民館活動を進めるため、学習・広報・体育レクの3つの専門委員会を設置しています。体レク専門委員会では、新しいスポーツの普及、体レク講座の企画・運営や、8月に開催する野球大会の運営等を担っています。

しく思います。

ニュースポーツを 味わって

確かに野球やバレーボールも広く行われてきた競技ではありますが、ニュースポーツも今一度、自分たちのチカラで普及する必要があると、今回改めて感じることができました。

皆さんもぜひ、一人でも多くニュースポーツを体感し、その楽しさや素晴らしいさを味わってもらいたいと思います。いい汗を流して、リフレッシュしましょう。

最後に、今回参加していただいた皆さん、そして講習会に携わった関係者の方々に心から感謝申し上げます。今回は試験的な意味合いでの開催ではありましたが、できれば来年も開催し、今回以上の参加者に来ていただけることを期待したいと思います。

(体レク専門委員長 伊藤博孝)
ニュースポーツのための用具はスポーツ健康課(茅野市総合体育館 ☎71・1645)で借りることができます。

初開催の ニュースポーツ講習会

令和6年度、体育レクリエ

ーション(以下、体レク)専門委員会では、毎年5月に行っていた野球またはバレーボールの審判講習会をいったん中断し、体レク専門委員会のコンセプトの一つでもある「ニュースポーツの推進」を改めて見直す意味で、今回新たな取組として「ニュースポーツ講習会」を開催しました。

初開催ということもあり、果たしてどれほど参加していただけなのかと我々専門委員一同心配していましたが、予想以上の方に来ていただき、改めてニュースポーツに対する関心の高さを感じ取ることができました。

これは体レク専門委員会にとって貴重な参考資料となる



▲大勢集まったニュースポーツ講習会

点でもあります。
今回のニュースポーツ講習会では、3種類の競技をチョイスしてみました。

一つ目は「ボッチャ」、二つ目は「ヘルスバレーボール」、三つ目は「デイスゲッター」です。参加者は3グル

ープに分かれ、限られた時間の中で3つの競技全てを体験しました。

スポーツは みんなを幸せに

今回の講習会では、家族で参加をしていただいた方々もいました。私も3つの競技を見学しましたが、印象的だったのは、みんなが笑顔で取り組んでいたことです。それを見て改めてスポーツはみんなを楽しくさせてくれるものののだなあと、つい、私まで笑顔になってしまいました。短時間ではありましたが、みんなが夢中になり、時間を忘れてスポーツを楽しむという、私自身のコンセプトでもある「明るく、楽しく、元気よく」が表現できたのではないのでしょうか。

スポーツはみんなを幸せに



▲まずはラジオ体操で体をほぐして

してくれるものでもあり、なくてはならないものだと思います。

コロナの影響でスポーツそのものができなかった時期もあり、私もショックを受けた一人でもあります。今こうやって再び活動することができるようになり、とてもうれ

ニュースポーツをご紹介します



ディスゲッター

フライングディスクを投げて、的（9枚のパネル）を狙うスポーツです。
個人戦も団体戦も可能で、難しいルールもなく、子どもから大人まで一緒になって楽しむことができます。



ヘルスバレーボール

千葉県流山市発祥のバレーボールです。直径90cmの楕円形で柔らかいボールを、バレーボールのルールで点を取り合うスポーツです。
千葉県体2010のデモンストレーション競技としても行われました。ボールは柔らかいので、レシーブしても痛くなく、強いアタックもないので、男女が混じってプレイしても楽しめます。

ボッチャ

的となる白いボール（ジャックボール）に向かって2チームが赤、青のボールそれぞれ6球を投げたり転がしたりして、いかに近づけるかを競うスポーツです。障がいのある人もない人も一緒に気軽に楽しめ、パラリンピックの正式種目にもなっています。
自分のボールを的に近づけるだけでなく、相手ボールを弾いたり、味方のボールを的に近づけるよう狙ったりと、チームのみんなで戦略を考え、コミュニケーションをとりながら楽しんで行えます。



ロビー 企画展

会場 茅野市中央公民館 1階ロビー
開館時間 月～土曜日 午前9時～午後9時30分
日曜日 午前9時～午後5時30分（第3日曜日休館）

りよう 俚謡作品展

期間 12月5日（木）正午～12月17日（火）午後3時
内容 俚謡作品約15点を展示
主催 茅野市俚謡会

高齢者大学実施報告

茅野市高齢者大学は、「高

齢者が教養、技能、運動等の学習を通して個性や能力を伸ばし、仲間づくりの輪を広げ、健康で豊かな生きがいのある生活を送ることが出来る」とを教育方針として掲げています。

今年度の教養講座実施内容を報告します。

教養講座①

前宮の御室の話し

「御室」とは、中世まで前宮で行われていた重要神事のための神居・神殿です。年末から翌年3月にかけて、前宮の社殿を神居とする御左口神（ミサグチ神）や大小の蛇形を御室に入れて祀っていたとされています。大蛇は長さが5丈5尺（約8m）だったとされており、これは御柱本宮の一の柱の長さと思議と一致します。

現代ではこの神事は行われておらず、建物の構造や位置については謎に包まれています。

講座では、神長官守矢史料館等に残る文献や近隣地域の中世の竪穴住居址などの考古学的見地から、その構造や位置について、考えられている説を教えていただきました。

教養講座②

「自然災害と防災」

「防災学習会」

市防災課の防災専門官を招いて実施しました。実際に災害現場での救助活動等を何度も経験された方からの言葉は重く、受講生からは「自分の命は自分で守る（自助）、自分たちのまちは自分たちで守る（共助）、避難のとき（安全確保）の理解ができた」といった感想が寄せられました。

教養講座③

尺八概論

「尺八音楽の歩みとその周辺」

講師の福田輝久先生（尺八奏者）、杵屋子邦先生（三味線奏者）から、尺八と三味線それぞれの歴史を説明いただき、演奏も聴かせていただき、切々とした情感溢れる音色に聴き入りました。最後は、先生の演奏に合わせて受講生全員で荒城の月を歌いました。尺八は奈良時代に唐から伝

尺八と三味線の音色に

聴き入る



わり、何度か姿を消しつつも現代まで伝わっているそうです。福田先生からは、「社会の急速な変化の波が私たち高齢者世代にも押し寄せている今日、育ってきた時間—伝統がどれほど引き継がれているのでしょうか。大切なものは残す勇氣も必要なことです」ということばを結びにいただきました。

教養講座④

茅野市の水道水、その水源から蛇口まで

現地見学として、市水道課職員に横内送水場を案内していただき、どここの水源の水が、どこに貯められ、どうやって自宅の水道から出てくるのかを説明いただきました。講義の中では、年始に起こった能登半島地震へ支援に行った経験談や、茅野市で大地震が起こった際の備えについても触れられていました。身近な話



▲ 横内送水場の中を見学

諏訪大社上社古図から



題で興味深く、講義後も講師を囲んで熱心に質問する受講生の姿がみられました。

教養講座⑤

星と惑星の誕生

どこから来て

どこへ行くのか

東京大学大学院理学系研究科附属天文学研究センター木曾観測所所長の小林尚人先生から講義をいただきました。

「長野県は宇宙県」というフレーズがあります。長野県は国内最高の星空環境を誇っており、木曾観測所も世界的な研究を続けています。

宇宙は無数の銀河からなります。「渦巻銀河（円盤銀河）」がもつとも普遍的で、その銀河のなかで星がどうやって作られるのかを説明していただきました。専門的な用語も多かったですが、多くの資料をご用意いただき、理解を深めることができました。



教養講座⑥

事故に学ぶ

公立諏訪東京理科大学へ赴き、今村友彦先生（工学部機械電気工学科教授）から身近にある危険について学びました。

本講座は、令和2年度に計画したものの、新型コロナウイルス感染症により実施を見送っていたものをやつと実現することができました。

「電子レンジで卵

を温めたら爆発した」「飲み残しの飲料が入ったペットボトルが突然破裂した」「リチウム電池で火災が起きた」など、身近な事故事例を取り上げ、なぜそのようなことが起こるのか、科学的に解説していただきました。

どれだけ気をつけても、絶対に事故が起きない（絶対安全）ということはありません。いかにして事故が起きる確率を低くするか、仮に起きてし



▲ 理科大内で受講

先生をお招きして、ご講演いただきました。

1930年代の日本国内は、世界恐慌のあおりを受け深刻な経済不況に陥っていました。満蒙開拓は疲弊した農村の経済立て直しや食糧増産などを目的に推し進められました。

背景には「満州国」の支配、防衛といった軍事的な目的もありました。

当時、日本全国から約27万人、茅野市域からも471名が渡満したと記録されています。

1945年8月、日本の敗戦を、現地の人々はどう迎え、どう生きたでしょう。

終戦が近づく頃には、現地住民の暴徒化等やソ連軍の侵攻等により追い詰められ、集団自決をは

かった人々もいました。結果として、約8万人が亡くなったと言われています。

歴史は語り継ぐだけでなく、「なぜ」を考える

ことが重要です。社会を見る目を養い、自分で考える力が平和な社会を築き、社会を創る力につながります。私たちは学ばなければなりません。



▲ 長野県は渡満者数が全国最多だった

令和7年度の高齢者大学については、3月1日号でご案内する予定です。



分館あ・ら・か・る・と
宮川 高部分館



▲区民集まる高部公民館

高部区は茅野市の最西端に位置し、杖突峠旧道が通り、古くから交通の要衝でした。また、諏訪大社上社本宮と前宮の中間に位置して、大変古い歴史を持つ区です。多くの古墳や、縄文から平安時代の住居跡が発掘されており、昔から人々が住んでいたようです。区内の山は急傾斜地が多くあり、地質学的にも特徴のある場所です。

令和3年9月には、大雨により発生した土石流災害により多数の家屋や道路に被害が出ました。現在は、下馬沢川上流の砂防堰堤工事や、河川改修が進んでいます。災害復旧には多くの皆様方にご協力をいただきましたことに、お礼申し上げます。

この災害で避難所として使

用した公民館は災害のあった年の5月に完成しました。新しい公民館は、区民が参加して屋根材の銅板たたき、波状に加工し、外壁材の杉板を焼き、室内照明のランプシェードを作成し使用しました。

公民館と同じ街道沿いにある相本社は「やかます様」とも呼ばれ、1200年以上の歴史があるとされています。現在の社殿は1858年の建立です。高部区の小宮御柱祭は、ここで建て御柱が行われます。令和4年の小宮御柱祭は、土石流災害の爪痕が残る中で開催されました。ゲストに災害

高部区は、人口300人ほどの小さな区ですが、まとまりが良く、公民館行事にも進んで参加してくれるのが伝統です。これからのこの伝統を大事にしていきたいものです。(高部分館文化部長 小池 剛)



▲楽しくボッチャも

のつながりで親交のある、小谷村のラッパ隊に参加していただき区民が心を一つにして盛大に行うことができました。

公民館の行事としては、今年、宮川地区卓球大会、野球大会に参加して健闘しました。6月には、3年ぶりの日帰りバスハイキングを実施し、親交のある小谷村に行き、楽しい時間を過ごしました。その他、どんどこやき、稲虫祭り、甘酒祭りなどの地区行事に協力しながら活動を行っております。

ふるさと発見★68

おひつじ座
空飛ぶ黄金の羊

12星座のひとつであるおひつじ座は、秋の夜空に見られる星座です。神話によると、空を飛ぶことができ、黄金に輝く毛皮を持つ羊でした。神に遣わされて、窮地に追い込まれていったかわいそうな兄妹を救い出したということです。兄プリクソスとともに黒海の果てコルクス(現在のジョージア)の地にたどり着いたあと、黄金の毛皮は大切に祀られました。天馬ベガス座に続いて空高く昇っていく様子は、まさに空飛ぶ羊の姿を連想させます。

別の神話では、この黄金の毛皮を求めてヘラクレスやふたご座の兄弟カストルとポルクスなど50人もの勇者が、巨大船アルゴ船に乗り込み冒険に出かけます。アルゴ船はアルゴ座として、おひつじ座が西に傾き始めると、それを追いかけるかのように冬の低空に現れます。このように神話で伝えら



(八ヶ岳総合博物館 渡辺真由子)